

**2025年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答**

2024年8月2日

株式会社ジェイテクト

**Q1. 北米で発生している生産性悪化の影響はどの程度か。****また、今後どのように改善していく予定か。**

- A1. 人がなかなか定着しないことで生産性が上がりず苦労している。  
生産性悪化に加え、特便等の追加費用が生じており、第1四半期で約30億円のロスコストが発生。採用環境や定着率は改善傾向にあり、第2四半期で底をうつために様々な仕掛けを行っていく。  
例えば、生産の早期正常化に向け、機能を横断したタスクチームを作り日本から支援を行うこと、小ロット品の製造を他地域へ移管することなど。

**Q2. 期初公表ではR&D等 将来に向けた固定費を計上していたが、状況に変化はあるか。**

- A2. R&Dに加え、新規PJの生準費用、人への投資、CN・DX等の費用を確保している。  
やるべきことは粛々と進めるが、市場環境を見極めながら費用の精査を行っていく。

**Q3. 業績予想における「インフレ影響」、「費用増減他」の状況は。**

- A3. インフレ影響は、材料価格等が想定より高騰しておらず、損益への影響も減少。  
材料費・エネルギー費の回収はルール化されてきているので、100%回収に向け、労務費についてもしっかり仕入先の声も聞きながら客先と交渉していく。  
また、値引き抑制・現行品の売価UP等、原価改善として回収しているものもある。

費用増減他は、北米のロスコスト等が発生したが、欧州の構造改革効果等で一部吸収。  
第1四半期実績には棚卸未実現の影響が発生しているが、期末に向け解消予定。

**Q4. 欧州は赤字が継続している一方、通期業績予想は改善方向に見直されているが、改善の進捗と赤字脱却に向けて進めていく改革の内容は。**

- A4. ポンプ事業売却など、固定費削減を徹底的に行っている。(19年度比▲100億円)  
ただし、19年度比で物量が約3割減少しており、市場環境は厳しい状況が続く。  
そのため、もう一段の構造改革を進めていく。

**Q5. ステアリング事業・駆動事業の通期業績予想を変更している理由は。**

- A5. ステアリング事業は、将来に向けて R&D など戦略的な固定費が必要な状況。ただし、やるべきことは粛々と進める中でも、市場環境を見極めながら費用管理を強化していくという意思を込めて上方修正した。
- 駆動事業は、北米の生産性悪化・ロスコストの影響を考慮し下方修正した。

**Q6. 第 1 四半期の進捗は、売上減など様々な下振れ要因があったと思うが想定通りだったか。**

- A6. グローバルで販売は低調。加えて、北米の生産性悪化・ロスコスト等の影響があったが、日本・アジアでの原価低減等でカバーし全体ではほぼ想定通り。

**Q7. 産機・軸受は、第 1 四半期実績は売上・利益とも低調だったが、今後の市場環境をどのように見ているのか。**

- A7. 昨年度から農建機・ロボット・半導体向け等の販売が低調。これらの業種は利益率が比較的高いので、販売構成が悪化している。しかし、一部業種では受注も増えてきており、少しずつ明るい兆しが見えてきている。

以上